

## 内視鏡検査についての薬剤情報提供書

### I. 抗血栓薬の内服の有無について.

抗血栓薬の内服が ① ある , ②ない

→②の場合、これ以降の記載は必要ありません.

### II. 抗血栓薬を内服されている場合、その名称. さらに中止か継続か.

ワルファリン, アスピリン, パナルジン, プラビックス, プレタール など

薬剤名 ( )	を	日前から中止指示	・	継続
薬剤名 ( )	を	日前から中止指示	・	継続
薬剤名 ( )	を	日前から中止指示	・	継続
薬剤名 ( )	を	日前から中止指示	・	継続
薬剤名 ( )	を	日前から中止指示	・	継続

### II. 抗血栓薬を内服・継続されている場合、生検の可否のご指示.

- ① 必要に応じて生検を行う.
- ② 生検に伴う出血が危惧されるため、観察のみとする. 生検が必要であれば、薬剤を中止ないしは変更, 調節の後に改めて検査を予約する.

### III. ワルファリンを内服中の患者様について.

- ① ワルファリン内服中であるが、中止せずに検査. 観察のみ.
- ② ワルファリン内服中であるが、中止せずに検査. 必要に応じて生検.

→②を選ばれた場合、ワルファリン内服中に生検を行う場合は「PT-INR が治療域である」ことの確認が必要でありますので、当科来院時に血液検査を行い、PT-INR を確認後、検査の可否を決定します。従いまして、内視鏡検査当日、当科で血液検査を行うこと、検査結果によっては、その日は観察のみとなる可能性もあることを患者様に事前にご説明ください。

## 消化器内視鏡検査同意書

本検査は、食道、胃、十二指腸の中を細心の注意を払いながら内視鏡により直接観察し、診断を行う方法です。必要に応じ、次のような処置を行うことがあります。

- 1) 生検、細胞診：組織検査のため、内視鏡を通して挿入した鉗子（かんし）やブラシで粘膜の一部を採取すること。細心の注意を払って行いますが、場合によっては出血を誘発することもあります。
- 2) 止血処置：出血がみられたときに行います。生検のあとの出血が続く場合にも行うことがあります。止血のための薬の散布。金属製のクリップで粘膜を挟む。高周波を通して粘膜を焼灼する。止血のための薬を粘膜に注入する。などがあります。
- 3) 色素散布：粘膜の凹凸や性状の変化をより詳しく観察するために粘膜に色素を撒くことがあります。

内視鏡検査による危険性（偶発症・合併症）としては、次のようなことが起こりうるものが報告されています。

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| 1) 内視鏡による粘膜損傷      | 2) 検査時に使用する薬剤の副作用、アレルギー |
| 3) 出血              | 4) 穿孔（穴が開くこと）           |
| 5) 検査前にあった病気、持病の悪化 | 6) その他                  |

万一、緊急事態、偶発症・合併症が発生した場合には、適切な処置・治療を行います。

以上、\_\_\_\_\_様、および同席者（続柄 \_\_\_\_\_） \_\_\_\_\_様に内視鏡検査の目的と必要性、方法、危険性について説明しました。

平成 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 国保中央病院 \_\_\_\_\_科医師 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ 医院・クリニック 医師 \_\_\_\_\_

患者様氏名 \_\_\_\_\_ 殿、同席者 \_\_\_\_\_ 殿

私は、\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日に内視鏡検査の目的と必要性、方法、危険性について上記の記載事項を読み、また、主治医からの説明を受けました。その上で、消化器内視鏡検査を受けることに同意します。万一、緊急事態、偶発症・合併症が発生した場合には、適切な処置・治療を受けることも同意します。

平成 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

本人署名 \_\_\_\_\_ 印

(代理人 \_\_\_\_\_ 印 続柄 \_\_\_\_\_)

国保中央病院 院長 \_\_\_\_\_ 殿

抗血栓薬を内服しておられる患者様へ  
(抗血栓薬＝バイアスピリン，バファリン，ワルファリン，など)

現在、血栓（血管内で血液が固まった状態）が生じることを防ぐために「抗血栓薬」を内服しておられます。この薬は血管の中で血液が固まるのを防ぐと同時に、様々な処置に伴って出血を誘発することがあります。内視鏡検査の際に、粘膜にカメラがこすれたり、上に記載した「生検」を行ったあとに出血が生じることがありますが、「抗血栓薬」を服用している場合、止血までに時間がかかったり、自然に止血しなくなることもあります。このような場合、「止血処置」を必要とします。止血処置の方法によっては、数日間、入院していただくこともあります。内視鏡検査の際にはこの「抗血栓薬」を中止して検査をお受け頂くことも可能ですが、その場合、患者様の状態によっては、血栓塞栓症（血管内で血液が固まること。脳梗塞、脳塞栓、心筋梗塞 など）を生じる危険性が高くなるとの報告もございます（アスピリンの中止により心血管イベント、脳梗塞が約3倍に増加するとされ、ワルファリンの中止100回につき1回の割合で血栓塞栓症が発症するとされる）。

今回の検査にあたり、「抗血栓薬」の内服を中止して検査を行うか、内服を継続したままで検査をご希望されるか、ご選択下さい。

- ① 抗血栓薬の内服は中止して検査を行う。
- ② 血栓薬の内服があるが、中止せずに検査を行う。必要に応じて生検を行う。
- ③ 血栓薬の内服があるが、中止せずに検査を行う。出血の可能性を避けるため、観察のみとする。生検が必要であれば、薬剤を中止ないしは変更、調節の後に改めて検査を予約する。

ワルファリンを内服中の患者様へ

ワルファリンを内服中に生検を行う場合は「PT-INRが治療域である」ことの確認が必要であります。ワルファリンの効果が治療域を超えていた場合、出血が止まらず、最悪の場合、手術が必要となることもあり、非常に危険です。そのため、ワルファリンの内服を継続して内視鏡検査を行う際には、検査当日、来院時に血液検査を行い、PT-INRを確認後、検査の可否を決定します。従いまして、検査結果によっては、その日は観察のみとなる可能性もあることをご了解ください。

出血を避けるため、数日間ワルファリンを中止して内視鏡検査を行うことも可能ですが、その場合は、血栓塞栓症を生じる危険性が高くなることをご了解ください。

- ① ワルファリンを中止して検査を受ける。
- ② ワルファリンを中止せずに検査。観察のみ。
- ③ ワルファリンを中止せずに検査。必要に応じて生検。

依頼元医師署名 \_\_\_\_\_ 印